

令和4年度 白川郷学園研究構想

【学園の児童生徒の実態】

- ふるさと白川郷の自然やくらしに興味をもち、意欲的に活動に取り組む姿がある。
- ICTを活用するなど、自分の考えを豊かに表現できる。
- △一人一人の学力に大きな差がある。

【学園の教育目標】

ひとりだち

自立 共生 貢献

【今後求められるもの】

- ・ふるさと白川郷で培ってきた知識や技能を土台として、社会や人生をより豊かなものにしていく力の育成。
- ・困難にぶつかったとき、自ら解決方法を考えたり、協働的に学んだりして、問題を解決しようと粘り強く取り組む姿。

【「ひとりだち」の児童生徒像】

- ①自立…意欲的に学び、より質の高いものを自ら求め続ける子
- ②共生…対話的に学び、仲間と協力して活動する子
- ③貢献…深く学び、仲間・地域のために行動する子

【教育目標達成のために、全教育活動を通して育む資質能力：先を読む力】

先を読む力とは、「児童生徒が、主体的に問題解決の方法を生み出していく力」である。この力は、教師が手立てを与えすぎるとは培われることはない。全教育活動を通して、児童生徒が、これまでに身に付けた既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら試行錯誤する営み（学びの加速）を繰り返す中で、培われるものであると捉えている。

【研究主題】 一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

【研究仮説】

「なぜ？」や「どうすればできるようになるかな？」という課題意識をもって試行錯誤する営み（学びの加速）を創造することで、一人一人の子どもが、自分の生活経験や既習内容を基に多様な見方・考え方を働かせて、問題の解決方法を生み出していく力（先を読む力）を発揮することができる。この営みを継続すれば、先を読む力を育み、先行き不透明な社会においても、自分の力でよりよい未来を切り拓いていける「ひとりだち」した子を育成することができる。

【研究内容】

- (1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化
- (2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化
- (3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

【研究の方途】

- (1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化
 - 各教科部における、発達段階に応じた「先を読む力」の具体化
- (2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化
 - 各教科部における、児童生徒理解の方法の明確化
- (3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫
 - 学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫
 - 試行錯誤を生み出す展開の工夫
 - 一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫